

東区地域ケア連絡協議会
7月例会（第203回）Web研修
2021年7月21日

「コロナ禍での課題抽出・共有」
アウトブレイクセッションまとめ

施設入居者・サービス提供の課題

- 面会禁止による本人との面談不可により、アセスメントができない・・・>適切なサービスへつなげることが困難
- 一切の出入りが禁止になった施設もあり、訪問看護のサービス提供ができないケースもあり、利用者を守れない
- 往診（歯科）も入れず、重症化してしまうケースもあった
- デイサービス利用減に伴うフレイル（多数意見あり）
- 濃厚接触者のサービス調整が困難
- 電話でのモニタリングの限界
- 老人クラブの禁止・・・インフォーマルなサービスにつながりにくい

介護者の課題

- 介護者がコロナ陽性→介護者と利用者セットの入院ができない
- 家族がコロナウイルスに感染し、利用者が濃厚接触者になった場合のサービス調整が困難。認知症を患っている場合は特に複雑化する
- 障害の子をみていた母がコロナウイルス感染したときも、その後の調整が難しい。
- 虐待になってしまったケースもあった
- 介護上のストレスが大
- 家族が本州から来道したときの訪問をどうすべきか悩むことがあった。
- インフォーマルサービスに繋がたくても活動していないことがあり、結果フォーマルサービスに繋がってしまう。

薬局における課題

- 外出が減少することにより、血圧など身体症状への影響がある
- 定期的な利用者が急に来なくなるケースあり→電話によるフォローを行ったら、骨折して入院していた→外出しないことによる影響が大きいのではないか
- 連携していた施設の看護師が感染・・・ニュースで情報を知る
- 薬をもらいにきた患者さんから介護負担が増えたという話が出たことがあった。

医療の継続・連携に関する課題

- 感染を恐れ、受診控えが多々あり（医科、歯科とも）
- 歯のトラブルがあっても受診しない
- 歯科の予防が不要不急になってしまう・・・受診控え
- 薬がなくなっても受診しない
- 受診を勧めてても理解してもらうことが難しい
- 医療継続のひとつの解決策：電話再診が可能か、かかりつけに確認してみる
- 退院時のカンファレンス：面会禁止により面会できず情報共有が十分されにくい

情報共有に関する課題・解決策

- 孤立する利用者への周知に関する課題
- 集いの場がなく、他者交流ができない環境で介護予防やセルフケアについてどういう手立てを行うかが課題
- 院内掲示の活用ができないか、地域のまとまった情報を掲示できるような工夫の検討
- コロナ後を見据え、これからのネットワークのあり方が大きな課題
- 東区地域ケア連絡協議会幹事会のメーリングリストの活用→幹事会での検討
- 今回のグループワークを経て、在宅は『受診しない理由などをコロナ禍の課題』をキャッチしやすいのではないかと感じる事ができた→医療側で提供している電話再診等の情報をどのように共有していくかが今後の課題
- 今後も情報共有や課題解決に向けた話し合いが必要